

月刊「キリスト教書評誌」

# 本のひろば

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2022年6月1日発行(毎月一回1日発行)第774号

June  
2022 6

● 出会い・本・人

真っ白だったり、真っ黒だったり 森下辰衛

● 特集 正教会の信仰を学ぶには

この三冊！ ゲオルギイ松島雄一

● 本・批評と紹介

月本昭男著 見えない神を信ずる 朴 大信

平良愛香監修 LGBTとキリスト教 新免 貢

ミヒヤエル・デ・リッダー著／ヴォルフガング・R・アーデ、島田宗洋訳

生命との別離 いのち おわれ 長谷川(間瀬) 恵美

小島誠志文／森本二太郎 写真

光は闇のなかに 小友 聡

金子晴勇著 キリスト教思想史の諸時代Ⅴ 大島征二

青山学院大学宗教学主任会編著 大学の祈り 佐原光児

熊田凡子著

日本におけるキリスト教保育思想の継承 片山知子

既刊案内

書店案内

『季刊 教師の友』2017~2020年度連載を単行本化

# 羽をやすめるとまり木で

「青少年の居場所 Kiitos」から

白旗眞生



生きづらさやさまざまな事情をかかえた若者があつまる場所、「青少年の居場所 Kiitos (キートス)」。その主宰者である著者が、キートスで出会う一人ひとりと深く関わるなかで感じたことを綴る。精神科医・石丸昌彦氏との対談「子どもたちの家族として」も収録。



◆四六判 並製・112頁・定価1,430円 2022年5月25日刊行予定

全国のキリスト教書店員が選んだいちばん読んでほしい本

## 2022 キリスト教書店大賞

ここが変わった!  
「聖書協会共同訳」  
新約編

浅野淳博／伊東寿泰／須藤伊知郎／辻学／中野実／廣石望 著  
定価1,320円



ひとりで  
死なせはしない  
日本人牧師、アメリカで  
コロナ患者を看取る  
関野和寛 著  
定価1,430円



三浦綾子  
祈りのことば

三浦綾子 ことば  
おちあいまちこ 写真  
定価1,320円



旧約聖書  
おもしろクイズドリル  
大島力 監修 定価1,100円

新約聖書  
おもしろクイズドリル  
辻学 監修 定価1,100円



日本キリスト教団  
出版局からは  
5作品がノミネート!



## 真っ白だったり、真っ黒だったり

森下辰衛

生まれてはじめて読んだ聖書は真っ白でした。大学一年の時に。ある日郷里の彼女から届いた手紙には「あなたとお付き合いするのはやめます」とありました。ガンと頭を殴られ、それでも読み進めると、手紙の最後に「私は聖書の中のコリント人への手紙第一の13章が好きです。」聖書……？探している、友人が「入学式のときにもらったよ」と言います。ところが、彼のその聖書は押入れの奥に汚い物と一緒に漬物状態になっていて、赤い表紙がカビで真っ白だったのです。雑巾でゴシゴシしてから目次を開き、彼女が言う箇所を探しました。「たといわたしが、人々の言葉や御使たちの言葉を語っても、もし愛がなければ、わたしは、やかましい鐘や騒がしい鍍鉢と同じである。」もう一回ガンと殴られたようでした。「お前は愛じゃない」と言われたのです。更に「愛は礼儀に反することをせず」云々。ああ、自分には愛などなかったのだと知りました。

その翌年、その聖書をくれた友人が引越しようというので手

伝いました。アパートのごみ焼場の灰の中に黒こげの文庫本が落ちていました。カバーは前面が焼け落ちて、裏面だけが残り、本体も半ば焼け崩れていました。誰かがここで焼いたのです。それでも、書名は分かりました。三浦綾子の「塩狩峠」。それから二年後、大学院入試で全部落ちて、生死の境を彷徨う病気をし、もう死んでしまいたいほど心身ともに疲れ果てた私が、なぜか手にとって読んだのが「塩狩峠」でした。馬鹿な死に方をする男の物語が書かれていました。それが21年後大学教授の椅子を捨てさせる本になりました。

カビだらけになったり、黒こげになったり。それは人生のようでもありますが、本というものは、その力で人を掴まえて、引きずりまわして裸にし、遂には黒こげになるまで許さないものなのだと思います。でも、ちゃんとお仕舞にそこまで行ければ、めでたしめでたし。

(もりした・たつえ 三浦綾子読書会代表)



## 正教会の信仰を学ぶには

# ハリス三冊！

## ゲオルギイ松島雄一

(ゲオルギイ・まつしま・ゆういち…日本正教会大阪ハリストス正教会管轄司祭)

アレクサンドル・シユメーマン「世のいのちのために」(新教出版社)

待ちに待った朗報である。二〇〇三年に新教出版社から翻訳(訳者本稿筆者)、出版され、広く我が国のキリスト教界で新鮮な感動を以て読み継がれた「世のいのちのために」(For the Life of the World)がこの春、再版された。著者は、キリスト教の奉神礼(Liturgy)の神髄を語る神学者として、教派を越えて受け入れられてきた故アレクサンドル・シユメーマン神父(ア

メリカ正教会)。本書は一九六三年全米キリスト教学生連盟の四年に一度の大会で「学びの手引き」として執筆された。体系的な神学論文ではなく「キリスト教の世界観の輪郭、正教会の奉神礼体験が明らかにする世界と人生への見方を示そうと試みたものにすぎない」(まえがき)。しかしその後、米国内はもとより、イギリスでも出版され、さらにフランス語、イタリア語、ギリシャ語に翻訳され、ソビエト政権下の地下出版の一つとしてロシア語にも

翻訳された。

私がこの書を初めて手にしたのは、神学校卒業後、司祭として働き始めてまだ間もない頃である。本書第一章「世のいのち」のページを繰ることに高まっていった衝撃は忘れられない。正教会はきわめて奉神礼的な教会である。その奉神礼世界の中心に置かれているのが、聖体礼儀(カトリックのミサ、プロテスタントの聖餐式にあたる)と、そこでキリストの身体と血として、パシとぶどう酒(日本正教会ではこれを尊んで「尊体」「尊血」としばしば呼ぶ)を分かち合う「領聖」である。当時は、ほとんどの信者が「尊体尊血」はその「尊さ」ゆえに「みだりに受けるものではない」というあやまった敬虔主義の影響で年に数回しか領聖していなかった。その現状を打ち破るべく、故フェオドシイ府主教が粘り強く頻繁な領聖を呼びかけ、その呼びかけがよう

やくまり始めていた時代であった。ただ、今振り返ると、私たち司祭たちも

を論じる。

含め一般の理解は「尊体尊血」の「尊さ」ゆえに、もっと頻繁にその「かたじけない御恩寵」に与るべきであると、一八〇度転換しただけで、それはなぜ尊いものなのかは十分に掘り下げられず、「領聖体験の繰り返し」のなかで自然に「ありがたみ」が会得されると「託宣」されたというのが実情であった。私自身もその「託宣」に加わっていたひとりである。「それを食べる人は、決して死なない。いつまでも生きる」(ヨハネ6・49-51)と主ご自身がおっしゃったじゃないか！ヨハネ伝第六章の「いのちのパン」を「み言葉」への象徴的表現とは解釈しない正教会では、こう言うほかなかった。シユメーマン神父はこの「託宣」の背後にある神秘へと私の目を開いてくれた。神父はまず第一章で「食べ物」

「聖書では、人の食物、すなわち人が生きるために関与しなければならぬ『この世』は神から『神との交わり』として与えられたものです。…存在するものはすべて神の人への贈り物です。人が神を知り得るため、また人のいのちを神との交わりにするための贈り物です。人に食物を与えいのちを与えたのは神の愛です。神はそのお造りになったものを何もかも祝福します。『主の恵みふかき』ことを味わい知れ(詩編34・8)」と聖書にあるように、神はすべてを『しるし』として、ご自身の存在と知恵、愛と啓示の手段としてお造りになりました。人は飢えた存在です。しかしそれは神への飢えです。私たちのいのち(＝生命、生活、人生)のあらゆる飢えの背後に神への飢えがあります。すべての欲求は最終的には神への欲求です。…全被造物は食物

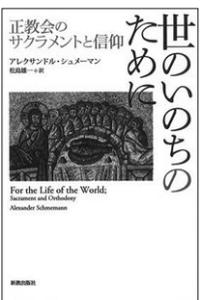
に依存しています。しかし、人のみが神から受け取った食物といのちを讃えるべく存在している点に、全被造物での人の独自の位置があります。人だけがその讚美(Diesing)によって神の祝福(Blessing)に応えます。この讚美と祝福の応答、ひとたび罪によって失われたこの交わりが、キリストによって回復され、人は被造物世界全体への司祭としてよみがえったことこそ、キリストによる救いの本質である。その救いの「現前化」こそ教会であり、「キリストのからだ」によって開始された感謝と呼ばれる奉神礼、聖体礼儀なのだ。「尊体尊血」は「神からの贈り物」として回復された「この世」「世のいのち」へと私たちを導く入り口である。ゆえに「尊い」のだ。これが本書を貫く著者の確信であり、同時に、古代教会から受け継がれてきた正教の核心である。

テイモシー・ウエア「正教会入門」(二〇一七年 新教出版社)

大変喜ばしく、かつ残念なのが本書である。もっか絶版である。しかし、正教会について何か確実な知識が必要になったとき、最初に参照すべき書としてぜひ広く知っていただきたい、紹介した。また本書の翻訳には監訳した私を始め三人の正教会司祭、四人の信徒が協力した。著者はオックスフォード大学で長く正教を研究する碩学であると同時に、正教会の主教でもある。内容は広く正教会の歴史、信仰、奉神礼、霊性の各分野に及ぶ。原著は「The Orthodox Church」1963年初版。世界中の正教に関心を持つ人々に読み継がれた定番図書である。再版が待たれる。

「キエフ洞窟修道院聖者列伝」(三浦清美訳、二〇二二年、松籟社)

神を讃えながら帰っていったという。この『キエフ洞窟修道院聖者列伝』には、師父への従順と真の謙遜、祈りと齋(断食)によって自らの罪を見、悔い改め、愛によって自らの罪の国を求める中世ルーシの修道の姿が生きて伝えられ、今でも正教修道文学の最重要な一冊として広く愛読されている。



『世のいのちのために  
正教会のサクラメントと信仰』  
アレクサンドル・シュメーマン：著  
松島雄一：訳  
新教出版社  
2003年刊  
B6判 227頁  
2,420円



『正教会入門 東方キリスト教の歴史・信仰・礼拝』  
アレクサンドル・シュメーマン：著  
松島雄一：監訳  
新教出版社  
2017年刊  
A5判 400頁  
4,400円



『キエフ洞窟修道院聖者列伝』  
三浦清美：訳・解説  
松籟社  
2021年刊  
四六判 448ページ  
4,400円

ルーシ(ロシア、ウクライナの古名)の時代、十一世紀なかばにキエフのドニエプル河畔に創設された洞窟修道院で祈りと齋(断食)の日々を送った修道士たちと、彼らを取り巻く人々の伝承集。十一世紀末から十三世紀始めにかけてまとめられた。文字通り「キリストに倣って」聖書を生きた人々の姿が活写されている。

前半は洞窟修道院を創設したアントニーとその弟子フェオドーシイのエピソードである。隠修者アントニーのもとに修道を志す人々が次々と集まり、「地上の天使、天上の人間」と称えられたフェオドーシイが修道院の基礎を整えていった。フェオドーシイは主イエスの「わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負いわたしに学びなさい(マタイ11:29)」という言葉通り、常に自分を低くし、「仕える者」として弟子たちに心を配った。

今年二月、ロシアのウクライナ侵攻が始まったとき、キエフで司祭を務める友人はSNSでこう語った。「今まで見かけたことのない人がたくさん教会に来て、痛悔(懺悔の機密)を受けます。多くの人が、戦争が始まって、今まで自分が神の道から離れていたことに気付かされたと言いました」。添えられた写真では、聖堂は跪いて祈

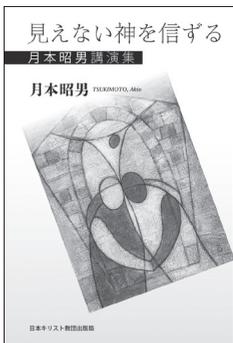
重労働を率先して行い、パンを焼き、水が足りないと言われれば、即座に水くみに行き、薪が足りなければ斧を手に薪割りを始めた。のんびり食事をしていた修道士たちは修道院長の働く姿を見てあわてて仕事に加わったという。

一方、兄弟争いの絶えないルーシの支配者、公たちにも丁重に、親しく聖書に従う生き方を伝えた。大公位を兄から篡奪したスヴァトスラフ公には「あなたの兄の血の音がアベルのサインに対するそれのように神に届いている」と非難の手紙を送った。周囲は公の逆鱗に触れるのを恐れたが、フェオドーシイは「投獄であろうと死であろうと心の準備はできている」と歓喜に満たされていた。また、公の方もフェオドーシイが「神に似て正しい」ことを知り危害を加えなかった。それどころか数日後、修道院を訪ね、フェオドーシイの語る聖書の兄弟愛の話に感銘し、

人々で埋め尽くされていた。痛悔し、血の滲むような祈りを捧げ、愛を実践したルーシの修道師父たちの「キリストにならう」姿が今も生きている。クリスチャンとして生きるなら、どのような時代にあっても、とりわけ今、その姿に立ち帰るべきである。

# 存在の根拠と、生の喜びを、 聖書の信仰から紐解く

〈評者〉 朴 大信



見えない神を信ずる  
月本昭男講演集  
月本昭男著



評者は学生時分、著者の月本昭男先生から有形無形の学恩に浴してきた者の一人である。思い出されるのは、しばしば協道にそれて道草を食うような、余談の数々である。例えば、学生時代にすべき三つのこと（旅、読書、恋愛）。親になったら我が子への愛の手紙をしたためておくことの大切さ。事実と真実との相違に関するご自身の体験談……。どれもが人生を深く見据えるための示唆に富み、何より、師の情に溢れていた。

この度、著者にとって四冊目となる講演集が刊行された。本書の豊かな言葉に触れ続ける中で、あらためて確信した。あの道草は、余談だったのではない。著者の半世紀にも及ぶ旧約聖書学者・古代オリエント学者としての大変緻密で真摯な学問的基盤に裏打ちされた、まさに現代に還元されるべき果実であり、創造的な知恵だったのだと。

……。ところが、この弱小の民の間には、目に見えない唯一の神への信仰が育まれました」（一九五―一九六頁）。「目に見えない唯一の神への信仰」。この信仰がもつ絶大なインパクト。それは個人史においては人生の重大な転機を、人類の宗教史にあつては大いなる逆説さえもたらす影響力である。大胆に言ってしまうえば、本書は総じて、その書名に『見えない神を信ずる』が選ばれていることからして、まさにこの「信ずる」ということの秘めたる消息をめぐって、多層的に奏でられる協奏曲のようですらある。

この点で、「目に見えない神を信ずる信仰は、要するに、隣人愛、兄弟愛として可視化されてゆく」（一四四頁）との言葉は、本書の真骨頂に映る。同様に、「ヨブと友人たちとの間の友情の破綻は、ヨブ記の隠れた主題のひとつ」

本書は、Ⅱ部から成る。第Ⅰ部「旧約聖書に学ぶ」（六講演）では、旧約聖書の特異な世界とその精神史的意義、またその裾野に広がる古代オリエントの考古学的知見や文化史的背景が、鮮やかに描き出される。他方、第Ⅱ部「信仰を語る」（五講演）では、著者自身の内に育まれてきたキリスト教信仰が、あたかも直に触れられるような体温と共に沁み渡っており、平易な語りと相まって、読者を信仰という世界、否、生の現実の奥深さに惹きつけてやまない。言うまでもなく、この両部は相互浸透的で、縦横無尽に支え合っている。同じ様相は個々の講演においても結実し、聖書の理解と信仰の発露は、共に分かち難く切り結ばれる。ところで、著者は「あとがき」でこう述べる。「そもそも旧約聖書を残したイスラエルの民は、古代オリエント文明世界の辺境に歴史を刻んだ弱小の一民族にすぎませんで

（九九頁）との鋭い洞察も、痛烈に響く。冒頭でも触れたように、著者の眼差しは聖書の歴史性から倫理性、「福音の社会性」（一九一頁）へと開かれてゆく。それは安易なヒューマニズムや自前の信念などは一線を画す。どこまでも聖書の信仰、とりわけ「創造信仰」を礎とする「贖罪信仰」の真相に尋ね求めながら、信じる主体と客体との激しいまでの人格的格闘、そして「存在の破れ」のただ中でなお生きることがゆるされた、生の喜びである。

「なんと信仰のない、よこしまな時代」（ルカ九・四一）に読まれるべき珠玉の一書たらんことを心から祈り、信ず。（ばく・てしん）日本基督教団松本東教会牧師  
（四六判・二〇〇頁・定価二四二〇円・日本キリスト教団出版局）



# 愛は忍ぶ 三浦綾子物語 挫折が拓いた人生

三浦綾子 生誕100年 記念出版

好評発売中

三浦綾子記念文学館 監修 日本キリスト教団出版局 編

『氷点』で一躍国民的大作家となり、1999年の没後も作品の多くが読み継がれ、今なおファンが多い三浦綾子。敗戦による教育者としての挫折、自殺未遂、13年間の闘病。しかしその挫折こそが彼女の人生を花開かせた。豊富な写真を交えつつその道のりをたどる。贈り物にも最適。A5判変型 並製・80頁・定価1320円

日本キリスト教団出版局  
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
E-mail: eigyoubu@bp.uccj.or.jp 《価格10%税込》  
<https://bp-uccj.jp>



十本・批評と紹介

### 各自が希望に沿った最期を迎える準備のために

〈評者〉長谷川（間瀬） 恵美



いのち おわかれ  
生命との別離  
事前医療指示書から  
緩和医療に至る手引き  
ミヒヤエル・デ・リッター著  
ヴォルフガング・R・アーデ、  
島田宗洋訳



著者ミヒヤエル・デ・リッター氏（一九四七生）は救急医療を専門とする医師で、ドイツでホスピスを設立されています。本書『生命との別離』は同氏の三部作、『わたしたちはどんな死に方をしたいのか？』『わたしたちはどんな医療が欲しいのか？』に次ぐ最終作です。アーデ氏、島田氏両医師による読みやすい訳とその労に感謝です。

本書は三〇〇頁程度で一三の章によって構成されており、個人が責任をもって「人間らしく」人生の終わりを迎えるために、死について、終末期医療についての議論を深める手引書として読むことができます。もちろん、本書はドイツ国内の事例に基づいてドイツ人医師としての立場からその取り組みを執筆されているので、日本の現状とは異なる点も多々見受けられます。それでも他者任せ、医者任せではなく、来るべき死に備えて自分の生命を生きるためにも、

意思、自己決定権を尊重する行為でも、断食死のためのルールを認識しておく必要があるということです。また蘇生術を施す行為、胃瘻を付けたり中断する行為が、いかに患者の死のプロセスにとって望ましくないことであるかについても説明されます。終盤では深い眠りの状態、昏睡の形態、認知症の症状、終末期の兆候、患者の最後の日々と時間について個別に考慮されるべき事柄について言及されます（七一―一章）。こうした死のプロセスの最後に待ち受ける心臓死と脳死という二つの異なった死のかたち、その後の臓器提供（二二―三章）について解説された最後に、科学の進歩により「死」がコントロールされる未来について想像しつつも、各自が希望に沿った最期を迎えるた

本書は十分に具体的な終末期の知識を与えてくれます。

本書は最初にドイツ基本法によって守られている「人間の尊厳と自由」から、医師としての生命保護義務とそれを上回る患者の自己決定権について明示します（一章）。患者の意思を決定づけるためのリビング・ウイル宣言書（事前医療指示書）に自身で記入する際の注意点が、臓器提供を例に示され、延命治療の是非、死亡補助について言及されますが、それに対してドイツの立法機関では確固たる判断を下していないこと、また国民アンケートから積極的自殺補助についての積極的な回答が得られたことにより、ドイツでは緩和医療に対する信頼感が低下していること、つまり緩和医療、緩和ケアの内容と姿勢について問われていること、そして、自死補助についての著者の立場が説明されます（二―五章）。例えば人工栄養法を拒否する患者の

めの準備を心がけるよう促されています。

今から一〇〇年以上も前にドイツに留学した森鷗外が『高瀬舟』で世に問うた「いのち」をめぐる提言（安楽死、尊厳死、自死補助、法制定）は未だに解決に至っていません。生命（いのち）について、QOL（生命の質）について問う人、最期までどう生きたいか、いのちをどう終えるか、QOD（善き死）について考えている人にお勧めしたい一冊です。訳者あとがき、そして付録（ひな形見本「事前医療指示書」など）も大いに参考になります。

（はせがわ・ませ・えみ 桜美林大学リベラルアーツ学群准教授）  
（四六判・二六四頁・定価二四二〇円・教文館）

### ヨベルの新刊案内

## 大貫隆著 プルトマン学派とガダマーを読む 3版 ヨハネ福音書解釈の根本問題

復活前と現在の「地平」が「融合」するヨハネ福音書の重要構造を解明！ プルトマン、ケーゼマン、ボルンカムら錚々たる聖書学の権威による解釈でも見落とされてきたイエスの全時性と共同体に吹き渡っていた聖霊の息吹への気づき。この視座から捉え直して見えてくる新たな「地平」の融合とは。 四六判上製・二四〇頁・予一九八〇円



## 青野太潮 福音の中心を求めて 3版 どう読むか、新約聖書

聖書学の常識は、信仰のヒジョウシキ。この逆説と乖離の荒海を、いざ航海。しかしそれらふたつ（聖書学と信仰）の「常識」は、多くの場合、厳しく相対立しています。で、ことはやっかいです。 新書判・240頁・2210円



ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F  
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858  
出版の手引き / 呈 (税込)

# 希望の光がここに！

〔評者〕小友 聡



## 光は闇のなかに

小島誠志文  
森本二郎写真



評者が最も心ときめく本が出版されました。牧師・小島誠志先生と写真家・森本二郎さんのコラボによる『光は闇のなかに』です。本は本ですが、黙想写真集と紹介したらよいでしょうか。一五年前に出版された『夜も昼のように』に続く第二弾です。前著は何度も版を重ね、多くの方々に愛読されました。その前著に続くこの『光は闇のなかに』の出版を評者は心待ちにしていました。

著者の小島誠志先生は元日本基督教団総会議長で、現在は四国・久万教会の牧師をされています。「聖句断想」という黙想集を数多く書いている先生です。知る人ぞ知るですが、小島先生は『信徒の友』に毎月のように短歌や俳句や詩を投稿され、それが紹介されています。心に染み入る信仰の言葉をやさしく紡ぐ先生です。森本二郎さんも写真家として著名な方です。大自然をテーマに魂を揺さぶる

写真を撮り続けています。森本さんも、やはり私たちにとっては『信徒の友』でおなじみです。この二人が見事なコラボレーションで本書を創り上げてくれました。本書は六〇頁ほどの小さな本です。けれども、この本はど今、キリスト者に深い慰めを届けてくれる本はないのではないかと、思われます。打ちひしがれて泣きたいとき、落ち込んで聖書を読む気力すら失われたとき、この本を開けば、深い慰めと心に届く希望の言葉に出会えます。涙が拭われ、明日を生きる勇気を与えられます。聖句を語る小島先生のメッセージと、みずみずしい感性で聖句を照らし出す森本さんの写真で、多くの人たちが癒される経験をするに違いありません。

少し紹介しましょう。「死の陰の谷を行くときも」と題した詩編二三編四節の聖句が引用されます。その聖句に小

島先生はメッセージを添えています。「人生には目を開いて通過できない地点があります。死の陰の谷。すくんで歩けなくなり、歩けなくていいのです。羊飼いがその胸に抱いて一緒に通過してください」と。左頁の写真では、ごつごつした岩の狭間から可憐な野の花が顔を出して咲いています。まるで「私もここにいますよ」と囁いているような大自然の小さな命です。小島先生の「歩けなくていいのです」という言葉に、涙がこぼれ落ちそうになりました。羊飼いの胸に抱かれて死の陰の谷を渡って行けると思うだけで、ほのかな希望が見えてきます。明日に向かって生きる力が湧いてきます。このような聖句に毎日出会えるならば、どんな試練があっても、たじろがずに歩いて行けるのではないかと、そんな気がしてきます。

評者はこの本を、病床にある教会員を訪ねる時にプレゼントとして用います。きっと多くの牧師たちがそう考えるのではないのでしょうか。本書は、希望を見出せないでいる方々、試練に遭っている方に届けたい本です。たとえキリスト者ではなくても、どこかの頁を開くだけで、慰めの言葉に出会えます。「光は闇のなかに」というタイトルの通り、今、先が見えず闇の中を喘いでいる人たちに、光を届け、生きる勇気を与えてくれる癒しの本です。このような素敵な本を私たちに届けてくれた、小島先生と森本さんに心から感謝いたします。

（おとも・さとし 東京神学大学教授、中村町教会牧師）  
（四六変型判・六四頁・定価一三二〇円・教文館）

あらずで辿る  
新しい聖書入門！

# 読める、わかる、 聖書の ストーリー

竹ヶ原政輝 [著]

日本基督教団高の原教会牧師  
同志社大学キリスト教文化センター  
チャプレン



- 世界の創造
- アブラハムの召命
- イスラエル王国の興亡
- イエスの誕生
- 十字架と復活
- 教会の誕生と宣教
- 終末

天地創造から  
イスラエル王国の盛衰、  
イエスの誕生、十字架と復活、  
使徒たちの活動まで。

大学を舞台に多くノックリスチャン学生と共に、聖書に向き合ってきた若手牧師が書き下ろす、聖書のグラウンドストーリー！  
手元に一冊あると便利な、各巻の概要解説付き！

### 第一部【物語編】

聖書の〈あらずじ〉  
をわかりやすく解説。

### 第二部【文書編】

66巻の各書簡の内容と  
特徴を簡潔丁寧に解説。

A5判・288頁・定価2,200円（税込）

キリスト新聞社 since 1946

169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
AVACOビル6階 TEL 03-5579-2432

# ルター「祈り・省察・試練」の人間学

〈評者〉大島征二



キリスト教思想史の諸時代Ⅴ  
ルターの思索  
金子晴勇者



全七巻別巻二巻で構成される壮大な企画の中でも、本書『ルターの思索』は別格ではなからうか。名著『ルターの人間学』（創文社、一九七五年）以来金子氏の著作の多くは、限られた読者を対象として学会誌等に執筆された諸論文が基になっている。「あとがき」にあるように、本書も序論、I、そして「談話室」の九編の書下ろしをのぞき、初出論文が再考を経て集められたものである。シリーズ中の一書としてまとめられたことで、これまで触れることの出来なかつた著者の業績を読めるようになった。「高校生頃からルターの書物に親しんできた」（談話室）著者にとつて、ルター研究はアウグスティヌスと並んで研究の大黒柱をなすが、先の著作「拾遺」もしくは第二巻ともいべき本書により、著者のルター研究の豊富な成果が熟成された形で味わうことができる。

著者は第一巻の序論において、「人間とは何か」という問題、「とくに、人間の自己認識、つまり『自覚』の痕跡をたどりながらこの問題を今日いかに採りあげ、考察、会得すべきかを明かにすることは極めて重要である」と本シリーズの趣旨を述べているが、本巻においては、ルターにおける「自覚」がさまざまな資料の厳密な読みを通して明らかになる。先の引用の前に、ヨーロッパ思想史には人間の自己理解の軌跡が、宝の山として残されていると比喩的に語つた著者は、今回その中から選りすぐりの宝をわれわれが味読できるようにしてくれた。

元々単論文として書かれたものを本書で統一するに際して、著者が選択した中心概念は「思索」であり「省察」（メダイタティオ）である。「省察」という思索の方法は、中世スコラ神学の演繹推理から「具体的な宗教体験に基づ

く帰納推理」へと転換したルターの思索では一貫して重要な意味を持っている、との認識から出発する。

「省察」というと多くの読者はデカルトの著書『省察』を想起するのではないだろうか。

二元論的立場に立つて理性的思考の明晰化、精緻化に努めたデカルトとルターの省察は本質的に異なっている。さらに根底には、デカルトの心身二元論に対して、「霊・魂・身体」の「自然本姓的」三分法及び「霊と肉」との「性質」における区分とからなるルターの複合的な人間観の相違が存在する。世界を起動させるために神に一つ爪はじきさせるだけで済ました、とパスカルに批判されたデカルトと異なり、ルターの思索の基底をなしているのは靈性

における生き生きとした神体験である。自らの方法を、「祈り、省察、試練」の三者から成る「実験的知恵」と述べている通り、彼の神学は生きた神体験の言語化であり、著者はこのようなルターの神学の核心を練達の筆によって描き出している。「神」をほとんど一単語としてしか知らない時代にあつて、本書は、ルターが開示する人間の「自覚」に照らして、改めて己の生を顧みることを促している。

「談話室」は本巻においても研究の裾野の広がりを垣間見させてくれて興味深い。

（おおしま・せいじ 信州大学名誉教授）  
（新書判・二七二頁・定価一三三〇円・ヨベル）

ヨベルの月刊 / 既刊案内

「ヨーロッパ思想史」

金子晴勇

キリスト教思想史の諸時代

ルターの思索

全巻ご予約承り中

ルター神学を「思索」＝「省察」を基点に捉えた意欲作。自己の「繊細にして感じやすい」《良心》は「アンテナ効果」によって神を感得する。良心が律法との関係に立つとき、何が良心に起こってくるのか、そしてそれに対して良心はどのように応じているのか、という良心現象の考察。

077 新書判・272頁・1320円

キリスト教思想史の諸時代Ⅴ

ルターの思索

ルター「祈り・省察・試練」の三者から成る「実験的知恵」と述べている通り、彼の神学は生きた神体験の言語化であり、著者はこのようなルターの神学の核心を練達の筆によって描き出している。「神」をほとんど一単語としてしか知らない時代にあつて、本書は、ルターが開示する人間の「自覚」に照らして、改めて己の生を顧みることを促している。

「談話室」は本巻においても研究の裾野の広がりを垣間見させてくれて興味深い。

（おおしま・せいじ 信州大学名誉教授）  
（新書判・二七二頁・定価一三三〇円・ヨベル）

キリスト教思想史の諸時代 全7巻別巻2

I ヨーロッパ精神の源流（再版！ 既刊）  
II アウグスティヌスの思想世界（既刊）  
III ヨーロッパ中世の思想家たち（既刊）  
IV エラスムスと教養世界（既刊）  
V 「ルター」の思索（最新刊）  
VI 「宗教改革と近代思想」（第六回配本 編集者）  
VII 「現代思想との対決」（第七回配本）  
別巻1 アウグスティヌスの霊性思想（第八回配本）  
別巻2 アウグスティヌス三位一体論の研究（第九回配本）

金子晴勇 東西の霊性思想 本仏教と対話  
再版出来！ 四半世紀 280頁・1,800円

新書判・平均264頁  
各巻1,320円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F  
TEL.03(3818)4851 FAX.03(3818)4858  
出版の手引き / 呈 (税込)

## 建学の精神をつなぐ ランナーたちの足跡

〈評者〉 佐原光児



### 大学の祈り

見えないものに目を注ぎ

青山学院大学宗教学部編著



キリスト教主義学校で働く宗教主任たちは、駅伝ランナーなのかもしれない。

ランナーがタスキをつなぐことに情熱を注ぐように、受け継ぐ建学の精神に全霊をかける人たちがいる。ランナーが割り当てられたコースを熟知するように、この世界と大学が進もうとする道のりに想いを馳せ、それを見極めようとする。創立以来の祈りを未来へとつなぐためだ。

また駅伝ランナーがチームの仲間を心にかけて、応援してくれる人たちへの感謝を覚えて走るように、その想いはいつも学校の同僚と学生たちに向けられている。タスキがつながれるためなら裏方に回り、サポート役に徹することもあるだろう。

全国のキリスト教主義学校で宗教主任やそれに準ずる働きをしている方々の責任は大きい。だが、その存在意義を

また「パソコンの調子が悪い」時の祈りは、笑いながら同意したくなるユニークなものだ。こうした祈りを受け取る人の中には、その言葉と祈る人の姿に、神の想いを見て取る人がきつといるだろう。

祈りはよく神との対話（本書のまえがきによれば「おしゃべり」といわれる。とはいえ、わたしたちの祈りは気づけば独り言になってしまうことも多い。しかし本書の祈りは、神と人に向かって開かれている。なぜならこれらの祈りは、神だけでなく目の前にいる教職員や学生たちと共有された空間で紡ぎ出されているからだ。祈りに込められた想い、なによりその祈りをささげる宗教主任の存在そのものが、建学の精神を証している。宗教主任たちは神とおしゃべりをさまざまな場面で続けながら、実はそこ

組織全体が理解しているとは限らない。キリスト教への無

理解にペースを乱すこともあれば、建学の精神が経営判断に飲み込まれそうな悪天候をいくこともある。喜びも多いが、荷車を引くような足取りが続くこともあるだろう。この現実を受け止め、建学の精神を懸命につなぐ青山学院大学宗教主任・宣教師の祈りの足跡が、本書である。

本書にはさまざまな場面でさげられた祈りが収められている。入学式や卒業式などの式典、もろもろの会議や箱根駅伝壮行会、クリスマスなどのキリスト教行事に合わせたものがある。さらに、学生や同僚である教職員の現実に応えようとする祈りもある（失恋した時、学業継続に悩んだ時、心が重い時、病で離職する時など）。動物実験に関する祈りは、研究において命を扱う実情を感じさせる（もちろん、動物実験そのものに対する賛否もあるだろう）。

にいる人たちの心に触れようとしてもしているのだ。

本書を手にしたが、わたしならこの状況でどんな言葉で祈るだろうかと思案し、自分の同僚や学生の姿を想い描いていた。読者もこの本を手にとることで、それぞれの現場に合わせた祈りへと導かれるに違いない。

宗教主任たちはいつか、タスキの創始者や仲間から「なんと美しいことか 山々の上で良い知らせを伝える者の足は」（イザヤ五二・七）と言葉をかけてもらえるだろうか。確証はないが、今日も祈るために神と人の前に進み出ていくのだろう。

（さほら・こうじ）桜美林大学准教授・チャプレン  
（四六判・一二八頁・定価一三二〇円・日本キリスト教団出版局）



## 小川修パウロ 書簡講義録8 ガラテヤ書講義 II

〔本講義録（全10巻）  
最終回配本〕

小川修先生が長年追い求められた福音理解は、ひとこと言えば、「神（まこと）から人間の（まこと）」というパウロの福音理解であった。「一般信徒を前にした、最後の講演」パウロは何を説いたのか」を収録。

小川修パウロ書簡講義録刊行会編  
●A5判上製 二九七頁 ●定価三三〇〇円

LITHON [リト]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402  
☎ 03-3238-7678 FAX 03-3238-7638

## キリスト教保育の 歴史的意義を示す

〈評者〉  
片山知子



日本におけるキリスト教  
保育思想の継承  
立花富、南信子、女性宣教師の  
史料を巡って  
熊田凡子著



原稿依頼を受けた三月初め、よもやこの時代にウクライナとロシアとの地域紛争が拡大して戦争状態となり、日々の報道に数多くの粗末な十字架の墓標が映し出される状況になるとは予想もしなかった。本の紹介文の冒頭には相応しくないとと思うが敢えて記す。

それは、子どもの保育という営みが戦争とは対極の平和な生活の保障を前提とするからである。保育思想の背景には子どもを愛おしみ尊重しようとした人々の存在がある。COVID-19のパンデミックが収束せずに二年以上経ち、更にこの戦禍で多くの子どもたちがいのちの危機に直面させられていることに心痛め、一日も早い解決を求め祈りを合わせたい。

さて、本書は保育実践者から研究者として歩まれている熊田凡子先生がご研究を博士論文にまとめられた著書である。スト新聞社、二〇〇三・二〇〇九年の労作があり、歴史的な興味を深めることができた。それから一二年を経て、熊田凡子先生が読者に再び歴史の扉を開く喜び、心躍る経験を与えて下さった。

本書を手にした方は、頁数の多い書籍で読了するのを躊躇するかもしれない。実際、参考文献リスト、巻末史料の多さに驚くだろう。しかし、目次に記された各章のタイトルはどれも興味深く、特に一章から六章までは、どの章から読み始めても十分にキリスト教保育の実践の豊かさ——先進的な保育に誇りを持ち励まれた保育者たちの姿、時代を反映した保育の実相、今も共感できる保育理念、子どもの生活とその傍らにある保育者の工夫や思い——に触れることが出来る。

特にキリスト教保育界での戦時下の保育についての検証はこれまで十分なされたとはいえない面がある。本書で新たな事実も記され、苦難の時代における当時の保育者たち

る。内容は、これまで発表分析されなかった日本のキリスト教保育の一次史料を基に、キリスト教保育が日本の幼児教育へ果たした歴史的意義を多くの視点をを用いて示されたものである。

日本の近代の幕開けの中、草創期のキリスト教保育事業は女性宣教師の働きとして始められた歴史を持つ。本書ではこれまでに出版された文献、資料、史料を網羅してキリスト教保育思想と日本の保育との関係性を明らかにしながら、これまで十分検証されずにいた領域に注目して論じている。日本のキリスト教保育の実践者として大きな影響を与えてきた南信子の存在に端を発し、現存する保育実践の記録等を分析した研究の果実である。

日本のキリスト教保育史に関する先行研究には小林恵子先生の『日本の幼児教育につくした宣教師』上・下（キリスト教の实情の一端を考えることが出来た。

なお、保育実践者の記録は保育研究の分野で近年注目されており、興味が尽きない。本書でも複数の報告が扱われており、本書の構成として不可欠であることは言うまでもないが、立花富と南信子研究がやや分散したようにも思われた。今後のご研究に期待したい。

私には保育関係の学会や養成校同士の交流の中でキリスト教保育が通奏低音のように響きあう豊かな出会いを得ることがあり、熊田凡子先生との出会いもそのような不思議な導きによる。

重厚な読後の感想はキリスト教保育の恵みを改めて再認識したことである。感謝。

(かたやま・ともこ 〓 「二社」キリスト教保育連盟理事長・和泉保育園園長)

(A5判・五〇四頁・定価八八〇〇円・教文館)

星野宏美	メンデルスゾーンの 宗教音楽 —バツハ復活からオラトリオ《パ ウロ》と《エリヤ》へ	四六	302	2,200	教	文	館	3/25
中島耕二編／日本基督 教団新学教会タムソン 書簡集編集委員会訳	タムソン書簡集	四六	394	6,380	教	文	館	3/25
長谷川忠幸	モーセの仰ぎ見る テムナーとは何か —民数記1-36章における構造 分析	A 5	416	6,820	教	文	館	3/25
井ノ川勝	ペトロの手紙を読もう —危機の時代の「生ける望み」	四六	208	2,420	日本キリスト 教団		出版局	3/15
土井健司、村上みか、芦 名定道、島田由紀監修	キリスト教神学命題集 —ユスティノスからJ. コーンまで	A 5	256	3,520	日本キリスト 教団		出版局	3/24
立教大学教会 音楽研究所編	日本聖公会聖歌集 による聖歌伴奏・ アレンジ集 第6巻	A 4	66	2,200	日本キリスト 教団		出版局	3/24
平良愛香監修	LGBTとキリスト教 —20人のストーリー—	四六	240	2,200	日本キリスト 教団		出版局	3/25
勝村弘也	VTJ旧約聖書注解 サムエル記上1～15章	A 5	450	7,260	日本キリスト 教団		出版局	3/25
大島力、小友聡、 島先克臣編	ここが変わった! 「聖書協会 共同訳」《旧約篇》	四六	128	1,320	日本キリスト 教団		出版局	3/28
山口雅弘	ガリラヤに生きたイエス —いのちの尊厳と人権の回復	新書	328	1,650	ヨ	ベ	ル	3/15
東洋英和女学院大学 死生学研究所編	死生学年報2022 —スピリチュアルケアの可能性	A 5	245	2,750	リ	ト	ン	3/15

## 既刊案内 (2022年2月～2022年3月)

編・著・訳者	書名	判型	頁	定価(税込)	版元	発行日		
ケリー・M・カビック 著／藤野雄大訳	シンガクすること、生きること —いちばんわかりやすいキリスト 教神学入門	A 5	120	1,320	一 麦 出 版 社	2/8		
三浦永光	人間存在に内在する 宗教性について	四六	203	1,650	新 教 出 版 社	2/15		
片山寛	中世キリスト教の七つの時	A 5	288	2,750	新 教 出 版 社	2/22		
オサジェフオ・ウフル・ セイウ著／山下社起訳	アーバンソウルズ —黒人青年、宗教、ヒップホップ・ カルチャー	B 6 変型	160	2,640	新 教 出 版 社	2/25		
長田栄一	新約聖書の世界 —愛と真理の言葉に聴く	四六	384	1,980	ヨ	ベ	ル	2/25
青山学院大学 宗教主任会編著	大 学 の 祈 り —見えないものに目を注ぎ	四六	128	1,320	日本キリスト 教団		出版局	2/22
中山直子	二羽の小鳥 —信仰の尽きぬよこび	四六	186	1,980	日本キリスト 教団		出版局	2/25
ミヒヤエル・デ・ リッター著／ヴォルフ ガング・R・アーデ、 島田宗洋訳	いのち 生命との別離 —事前医療指示書から緩和医療 に至る手引き	四六	264	2,420	教	文	館	2/25
田中光	新しいダビデと新しい モーセの待望 —イザヤ書の正典的解釈	A 5	600	7,370	教	文	館	2/25
平野克己	説教 十字架上の七つの言葉 —イエスの叫びに教会は建つ	四六	220	1,870	キリスト新聞社		3/2	
日本クリスチャン・ アカデミー編	脱原発の必然性とエネルギー 転換の可能性 —地震国日本の現実とドイツの 先例から考える	四六	186	1,650	新 教 出 版 社		3/1	
相川裕亮	ビリー・グラハムと 「神の下の国家」アメリカ —福音伝道者の政治性	四六	300	2,750	新 教 出 版 社		3/8	
浅野淳博	死と命のメタファ —キリスト教贖罪論とその批判 への聖書学的応答	A 5	360	2,970	新 教 出 版 社		3/25	
トーマス・レーマー著／ 白田浩一訳	ヤバい神 —不都合な記事による旧約聖書 入門	四六	250	2,420	新 教 出 版 社		3/25	
小島誠志文／ 森本二郎写真	光は闇のなかに	四六 変型	64	1,320	教	文	館	3/8
熊田凡子	日本におけるキリスト教 保育思想の継承 —立花富、南信子、女性宣教師 の史料を巡って	A 5	504	8,800	教	文	館	3/9



全国のキリスト教書店員が選んだいちばん読んでほしい本

# キリスト教書店大賞2022

2021年1月~12月に出版されたキリスト教書の中から全国のキリスト教書店員が大賞を選出します。



主催  
キリスト教出版販売協会

## ノミネート10作品 (タイトル50音順)

価格は10%税込



定価1,100円

### 旧約聖書 おもしろクイズドリル

大島 力 監修

日本キリスト教団出版局

**おすすめ!**

びぶろすの森 森本一平さん

子ども向けかと思いきや、大人も苦戦する内容のクイズ。特にスペシャルクイズが秀逸で、楽しみながら挑戦できます。



定価1,430円

### ひとりで死なせはしない

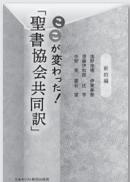
日本人牧師、アメリカでコロナ患者を看取る 関野和寛 著

日本キリスト教団出版局

**おすすめ!**

教文館キリスト教書部 秋月美咲子さん

コロナ感染大国アメリカのコロナ病棟で、チャレンジャーとして奮闘された関野和寛牧師が、実際に経験された筆舌に尽くしがたい日々が、壮絶に伝わってくる。多様化する今の社会で、今後チャレンの必要性を強く感じた1冊。



定価1,320円

### ここが変わった! 「聖書協会共同訳」新約編

浅野淳博 / 伊東寿泰 / 須藤伊知郎 / 辻学 / 中野実 / 廣石 望 著

日本キリスト教団出版局

**おすすめ!**

仙台キリスト教書部 永野香織さん

言葉の表現が変わった理由など多くの項目を短いページで説明しているので、読み物としても楽しめるし、聖書を開くきっかけにもなると思う。



定価1,980円

### ひと時の黙想 全き心を求めて

ストーマー・オマーティアン 著

日本聖書協会 訳

日本聖書協会

**おすすめ!**

仙台キリスト教書部 黒田 忠さん

シリーズ化されて3巻目です。毎日、短い時間で「ひと時の黙想」の空間が味わえます。手のひらサイズの装丁で、持ち運びにも軽くていつでも読むことができます。聖書協会共同訳に基づいているのも特筆です。



定価1,650円

### 子ども、本、祈り

斎藤惇夫 著

教文館

**おすすめ!**

神戸キリスト教書部 尾上嘉子さん

私も著者と同様、小学校時代に、それも6年生の時、担任の先生から、たくさんの本を読んでいただきました。自分でも好きでしたが、先生が読んでくださるのが、とても楽しかったです。今の子どもたちにも、そのような経験があれば、もっと本好きになってくれるのではないかと思います。



定価1,320円

### 三浦綾子 祈りのことば

三浦綾子 ことば

おちあいまちこ 写真

日本キリスト教団出版局

**おすすめ!**

京都ヨルダン社 田代伸一さん

忙しい忙しいと目の前の事務に、労力を費や集めることに疲弊している。本書で紹介されている「人が死んでのちに残るのは、集めたものではなくて散らしたものである」という言葉は、心にずりりと来る言葉である。



定価1,100円

### 新約聖書 おもしろクイズドリル

辻学 監修

日本キリスト教団出版局

**おすすめ!**

清光書店 飯尾千尋さん

子どもも大人も、ひとりで楽しめるし、家族やお友だちと楽しみながら聖書学べる。タイトル通り! プレゼントにも最適です。



定価2,200円

### 目はかすまず 気力は失せず

講演・論考・説教

関田寛雄 著

新教出版社

**おすすめ!**

神戸キリスト教書部 川上二郎さん

タイトルが良い。気骨のあるキリスト者として、現役感のあるメッセージが伝わる。



定価1,650円

### 天国なんてどこにもないよ

それでもキリストと生きる

関野和寛 著

教文館

**おすすめ!**

バイブルハウス南青山 加藤太郎さん

目の前に広がる絶望に満ちた世界。暴力、差別、災害、孤独、パンデミック。理不尽に苦しむ人々に、自分には何ができるのか? 孤独と闘い、イエスにぶつかり続けた牧師が、矛盾だらけの聖書に食らいつき、絞り出した魂の叫び!



定価1,980円

### ユダよ、帰れ

コロナの時代に聖書を読む

奥田知志 著

新教出版社

**おすすめ!**

横浜キリスト教書部 高橋友彦さん

著者の奥田牧師が、長年にわたるホームレス支援など福祉の場において、昨今のコロナ禍による、特に弱者の抱える難儀を通して得られた種々の体験を聖書の言葉と対置させている。福音を伝えるべし説教という場を、まるで格闘のように語るメッセージ集。ぜひ御一読を。

書店名	郵便番号	住所	電話	ウェブサイト	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	<a href="http://www.jp-shop.com">http://www.jp-shop.com</a>	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用	<a href="http://www.keisenchristian.jp">http://www.keisenchristian.jp</a>	zenrinken_syoten_0530@atn00.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区新136 緑地センター171F	022-223-2736	共用	<a href="http://www.keisen.or.jp">http://www.keisen.or.jp</a>	fcgw@524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉県船橋区2-1-1	043-238-1224	043-247-3072	<a href="http://www.keisen.or.jp">http://www.keisen.or.jp</a>	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	<a href="http://www.kyodunkwan.co.jp">http://www.kyodunkwan.co.jp</a>	xbook@kyodunkwan.co.jp	00120-2-11357
フバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	<a href="http://www.avaco.info">http://www.avaco.info</a>	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待晨堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	<a href="http://tshindo-books.jindoo.com/">http://tshindo-books.jindoo.com/</a>	tshindo@com.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3567-1995	03-3567-4435	<a href="http://www.biblehouse.jp">http://www.biblehouse.jp</a>	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	<a href="http://www.bible.or.jp">http://www.bible.or.jp</a>	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用	<a href="http://www.s-seibun.co.jp/">http://www.s-seibun.co.jp/</a>	info@s-seibun.co.jp	00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	<a href="http://www.s-seibun.co.jp/">http://www.s-seibun.co.jp/</a>	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市中区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	<a href="http://nagoya-seibun.or.jp/">http://nagoya-seibun.or.jp/</a>	nagoya-seibun@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒瀬口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	<a href="http://web.ytdo.net/ky/people/kytdan/">http://web.ytdo.net/ky/people/kytdan/</a>	kytdan@nbox.kyoto-ine.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪府北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	<a href="http://osakabooks.web.fc2.com/">http://osakabooks.web.fc2.com/</a>	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスぶるすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132	<a href="http://osakabooks.web.fc2.com/">http://osakabooks.web.fc2.com/</a>	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三宮ビル2F	078-331-7569	078-945-9388	<a href="mailto:kobex@nikkian.co.jp">kobex@nikkian.co.jp</a>	00170-2-421390	00160-2-18410
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町1-2-7	082-208-0022	082-208-0177	<a href="mailto:hseibun051@yahoo.co.jp">hseibun051@yahoo.co.jp</a>	01360-4-1958	16220-17974891
リバーサイドブックス	779-1105	徳島県南市羽ノ浦町吉田大道ノ西3	090-8694-4986	050-3142-3017	<a href="http://www.geocities.jp/netsujane_1077/index.html">http://www.geocities.jp/netsujane_1077/index.html</a>	sksch@dokidok.lne.jp	01650-1-2120
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一丁目1-23	089-921-5519	089-921-5413	<a href="http://www.geocities.jp/netsujane_1077/index.html">http://www.geocities.jp/netsujane_1077/index.html</a>	ykwbt3@gmail.com	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックス	802-0022	北九州小倉北区上富野5-2-18	093-967-0321	共用	<a href="http://www.sinseikan.jp/">http://www.sinseikan.jp/</a>	info@sineseikan.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	<a href="http://www.sinseikan.jp/">http://www.sinseikan.jp/</a>	info@sineseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハルルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用	<a href="https://www.okinawabooks.net">https://www.okinawabooks.net</a>	info@okinawabooks.net	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	904-2151	沖縄市松本7-18-7	098-927-0220	098-938-1102	<a href="https://www.okinawabooks.net">https://www.okinawabooks.net</a>	info@okinawabooks.net	1790-4-152916

※一般書店関係の方は 日販営業部 TEL 03-3260-5570 にご連絡ください。

キリスト教書店大賞フェイスブックページ  
<https://www.facebook.com/christianbookoftheyear/>

「いいね!」をクリックして  
 最新情報をGET!  
 QRコードで簡単アクセス! →



# 福音と世界

## 2022年6月号

特集 進化論との出会い

寄稿者＝横山輝雄、碧海寿広、山本卓  
佐藤清子、檜垣立哉、小原克博

本誌七〇周年に寄せて（小林剛・松谷信司）  
／好評連載 コデイ・J・サンダース&アン  
ジェラ・ヤーバー「教会におけるマイクログ  
レクション」（訳・解説＝真下弥生）、ルカ  
福音書（山崎ランサム和彦、「日本的キリス  
ト教」を読む（山口陽一）ほか

A5判・定価660円・〒70円  
定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148  
Email: sales@shinkyō-pb.com

## から室集編

だ図鑑に描かれていた。

あれから四〇余年が経った。感染症拡大を防ぐため、移民の流入を阻むため、国境はより一層厳しく管理されるようになっていく。領土をめぐる争いが世界で頻発し、日本も例外ではない。この瞬間にも世界のいたるところで抑圧され、傷つき、命を奪われる人たちがいる。五〇日を経てウクライナでの戦火は止まず、さらなる拡大が危惧される。人類の前には、戦争以外にも数多の問題と争いの種が壁と

いつか地球統一国家が成立して国

境はなくなる。かつてそんな風に漠

然と思いついていたことを思い出す。

車が空を飛び、宇宙旅行が現実のも

のとなる、科学が発達した平和な

二一世紀の理想図が子供のころ読ん

## 予告

### 本のひろば

### 2022年7月号

本・批評と紹介

（巻頭エッセイ）高崎恵、（書評）田中 光著『新しいダビデと新しいモーセの待望』竹本修三・木村護郎クリストフ著『脱原発の必然性とエネルギー転換の可能性』トーマス・レーマー著『ヤバい神』山口雅弘著『ガリヤヤに生きたイエス』P・T・フォーサイス著『活けるキリスト』ケリー・M・カピック著『シンガクすること、生きること』他

なり立ちはまだかっている。

平和を求める国際会議は、いったいどれくらいの回数が

重ねられてきたのだろうか、人間同士の縄張り争いは、どれ

だけの血が流されたら終わるのだろうか。

一九四九年に書かれたケストナーの『動物会議』では、

人間の各国首脳が集まって世界平和を求め八七回の会議が

重ねられる。いっこうに進展しない人間の会議に腹を立て

た動物たちは、「人間の子供たちを救うため」世界中から

大集結、動物会議を開催する。動物たちは、たった一度の

会議で人間たちに永久平和の約束をさせてしまおう。七〇年

後の現代世界に向けてよりいっそう強く響く物語である。

今日キリストは世を救うため十字架につく。心に刻みな

がら復活日を迎えたい。受苦日にて。

（柳澤）

# 新約聖書のポリフォニー

新しい非神話論化のために



ブルトマンの非神話論化は本来何を  
目指していたのか？ 比喩表現を真  
理探求の試みとして理解することで、  
キリスト教信仰の三位一体論的表現  
に新たな光を当て、人間の真の「いの  
ち」の実現を待望する。新約聖書学の  
泰斗による最新の論考！

四六判・上製・280頁・定価3,960円

好評発売中！

## パウロの弁護人

G・タイセン 著 大貫隆 訳



青年法律家は獄中の使徒を救えるのか？ キ  
リスト教最大の伝道者の実像を原史料に基づ  
いて再構築し、その卓越した神学と生涯を描  
き出した著者渾身の思想小説。

四六判・上製・486頁・定価4,180円

# 自由と解放のメッセージ

出エジプト記とイザヤ書から

大島力 著



抑圧からの解放は、小さな命を守  
る行動から始まった――。震災、疫  
病、戦争……、混沌の時代に聴くべ  
き神の言葉がここに！

四六判・並製・168頁・定価2,090円

好評発売中！

## 神の王的支配

イザヤ書 1-39章

H・ヴァイルトベルガー 著  
大島力／金井美彦 訳



イザヤ書はどのように成立したのか？  
イザヤ書研究の大家が第一イザヤの使信  
と問題を簡潔に解説、その全体像を明ら  
かにする。

A5判・並製・344頁・定価6,380円

## ワイリアムス神学館叢書V 今さら聞けない!?

## キリスト教

岩城 聰 著



聖公会(アングリカン・コミュニオン)とはどのような教会なのか。主教制とも  
もに信徒の同意を重視する(実践の共同体)の特徴を、歴史と教理からやさしく  
解説。用語解説コラムと資料も充実！ ●A5判・並製・240頁・定価1,980円

聖公会の歴史と教理編



# レヴィナスの時間論

内田樹著 『時間と他者』を読む

4月25日



レヴィナス思想の戦後の出発点を告げる『時間と他者』。難解をもって鳴る同書を徹底的に精読・註解することを通して、深い苦しみの時間を生き抜いたユダヤ人の〈希望の時間論〉が浮かび上がってくる。著者の「レヴィナス三部作」ついに完結。

◆四六判・定価2860円

# 詩人は聖書をどのよう表現したか

柴崎聰著 日本の近現代詩人16名を読む！

4月25日

信仰者かつ優れた実作者である著者のみがなしうる透徹した読み。取り上げるのは島崎藤村／三木露風／山村暮鳥／八木重吉／石原吉郎／安西均／島朝夫／高野喜久雄／片瀬博子／塔和子／澤村光博／高橋喜久晴／野村英夫／島崎光正／阪田寛夫／森田進。

◆四六判・定価2310円

# ヤバイ神 不都合な記事による旧約聖書入門

トーマス・レーマー著／白田浩一訳 待望の書！

話題騒然



旧約聖書の神はなぜ横暴で残酷に見えるのか。そんな記述をどう解釈すべきか。多くの人が躓くテキストを旧約学の第一人者が取り上げ、それらの表現の意味と理由を考察し、愛と解放の真の神の「人柄」に迫った、目からウロコの書。

◆四六判・定価2420円

# ピリー・グラハムと「神の下の国家」アメリカ

相川裕亮著 福音伝道者の政治性

(あいかわ・ゆうすけ氏は広島大学法学部助教)

アイゼンハワーからオバマに至る歴代大統領と親密な関係を通じて、「アメリカの牧師」として彼らの政策に有形無形の影響を及ぼしたピリー・グラハム。主に冷戦下70年代までの思想と行動を〈福音伝道者〉という観点から解明した俊英の力作。

好評 ◆四六判・定価2750円

# キリスト教贖罪論とその批判への聖書学的応答

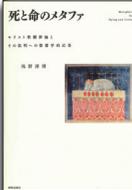
# 死と命のメタファ

浅野淳博著

反響続々

代理贖罪論は正しいのか？ 聖書が伝えようとしているキリストの死に至る生き様の真の意味を探り、その意味をいかに語るかを方向づける渾身の力作。完膚なき高橋哲哉批判。

◆定価 2970円



注目の既刊書

一九五七年七月一日 第三種郵便物認可  
二〇二二年六月一日発行(毎月一回一日発行)  
本ひろば 第七四号 二〇二二年六月号

発行所 〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1 一般財団法人キリスト教文書センター  
電話03-3360-6148 振替0170-517051705170  
発行人 金子和人 編集人 白田浩一 印刷所 モリモト印刷  
発売所 日本キリスト教書販株式会社 電話03-3360-6148

定価七八円(税抜七一円) 送料共  
二年分二三〇〇円(送料共)